

香 峰

KATSURAGI

— 泉州山岳会 —

ヒマラヤ・クーンブ山群パルチャモ峰（6, 270m）

登頂報告

2001. 11



特別号

B.C.から見るパルチャモ峰（6,270m）



テシラブツァ峠にそびえる雪壁（中央部を登攀した）



アタック成功（後 翁長,前列中央 岡本）



アタック成功2（後 吉田とシェルパ）



頂上から眺めるエベレスト（後方左端）



頂上から眺めるドロランバウ氷河



B.C.へ戻って



中央列右から3人目 翁長、右端 吉田、後列右端 岡本

テンポーカルカ



目次

はじめに	隊長 翁長和幸	1
行動概要 隊員紹介		3
ネパール全図、パルチャモ概念図		4
登高曲線	吉田勇雄	5
登山日誌	岡本聡子	6
パルチャモ峰アタック	吉田勇雄	10
渉外について	翁長和幸	13
装備について	吉田勇雄	15
食料について	岡本聡子	18
医療について	岡本聡子	19
隊員雑感		20
会計報告	吉田勇雄	22
協力者名簿		23
編集後記		23

はじめに

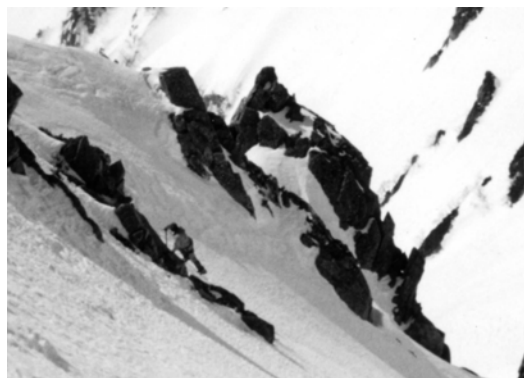
計画から登頂まで

隊長 翁長和幸

2001年11月16日午前10時10分、快晴の中パルチャモの頂上に3人が立ちました。

8000mや7000mの山でなくとも一度はネパールの山へ出かけたいと考えていた処、「山岳会に入ったのは海外の山を登る為」と云う吉田の話を聞き、二人だけでも行ってみようと決断した。2001年の1月でした。

目標はトレッキング・パーミッションで登れるパルチャモとし、期間は11月の始めより1ヶ月間と決定。ただちにコスモ・トレック（現地の旅行代理店）にパーミッションの取得費用や共同装備のレンタル費用、キャラバン費用の概算見積りを依頼し、他にもメンバーを求めた。岡本から参加の意思表示があり、結局3人のメンバーで行くことになった。



宝剣岳雪壁登攀トレーニング

トレーニングは4月中ア・宝剣岳から始まり5月は春山合宿と立山の雪上トレーニング、6月は富士山での高所訓練、7月、8月、9

月は信州方面での縦走という体力作り、最後は出発の2週間前に富士山で再度の高所訓練となった。

ネパールでは過激派の争乱事件が大々的に報道されている中、国王一家の射殺事件が起こった。ネパールの治安が気になったが計画の中止を考える事はなかった。

8月後半より航空チケットの事でアルパイン・ツアーとのやりとりが多くなり、いよいよ本格的な準備が始まった。特にタイ航空のチケットが取れるかどうかハッキリせず、そうこうしている内にアメリカの同時テロ事件が発生。アフガンでの戦争勃発の予想もあってチケット入手が更に困難とアルパイン・ツアーから連絡が入ってきた。結局、10月始めにチケットを押さえる事が出来たが、出発の5日前になって予定便がフライト中止になり1日遅れの出発になってしまった。

一方、装備・食料・行動の計画は進んでいったが、最も決めかねたのはB、Cまでのキャラバンの方法であった。コスモ・トレックとも頻繁にメール・FAXのやりとりをし、結局一般的なトレッキングと同じようにコック、ポータ、食事等すべてお任せ式のパッケージ方式に決め、コスモ・トレックに依頼をした。その依頼の中には「日本語の分かるシェルパを是非ともアレンジしておいて欲しい」旨記載しておいた。

葉の主なものはMチームの中野さん（京大医学部のドクター）より提供してもらい、山岳保険の加入とパルス・オキシメータについてはアルパイン・ツアーに依頼をして準備は終わった。

何か重要な事が抜けているのではと気遣いながら10月30日午後11時関空国際線ロビーに集合。11月1日午前1時25分バンコクへ向けて飛び立った。

結果は冒頭述べたように11月16日午前10時10分、頂上に3人が元気に立つこと

が出来ました。以上計画から登頂までの概略を記述してきましたが、最後に海外登山援助基金からのカンパについて紙面を借りて御礼申し上げます。なお、色々なアドバイスと資料の貸し出しをしてくれた角谷さん、留守本部を引き受けてくれた坪佐さん、カンパをしていただいた仲間の皆さん、葉の提供をしてくれた中野さん、パルチャモのオリジナルTシャツをプレゼントしてくれた梶原さん大変有り難うございました。深く感謝いたしております。



テンポ-カカから眺めるタセルとカンテ

キャラバンと高所順応の疲れをこの山がいやしてくれる

行動概要

11月	1日	関空出発	18日	B. C撤収
	3日	カトマンズからルクラ	21日	ルクラからカトマンズ
	13日	B. C設営	24日	カトマンズ発
	15日	H. C設営	25日	関空着
	16日	頂上		

隊員紹介

隊長：翁長和幸 1946年6月19日（生）
担当：総括、渉外 1965年9月入会 55才



隊員 岡本聡子 1968年8月27日（生）
担当：食料、医療 1997年3月入会 33才



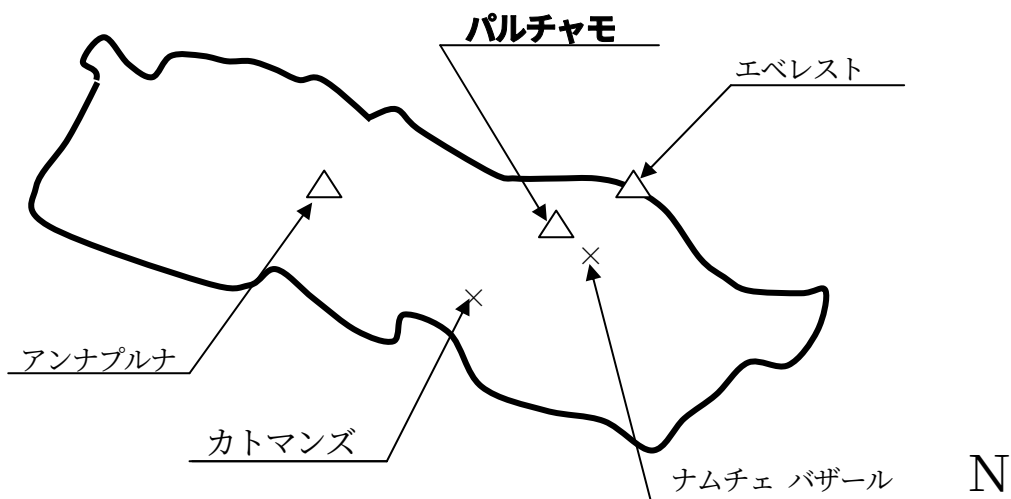
隊員 吉田勇雄 1956年6月26日（生）
担当：装備、会計 1999年1月入会 45才



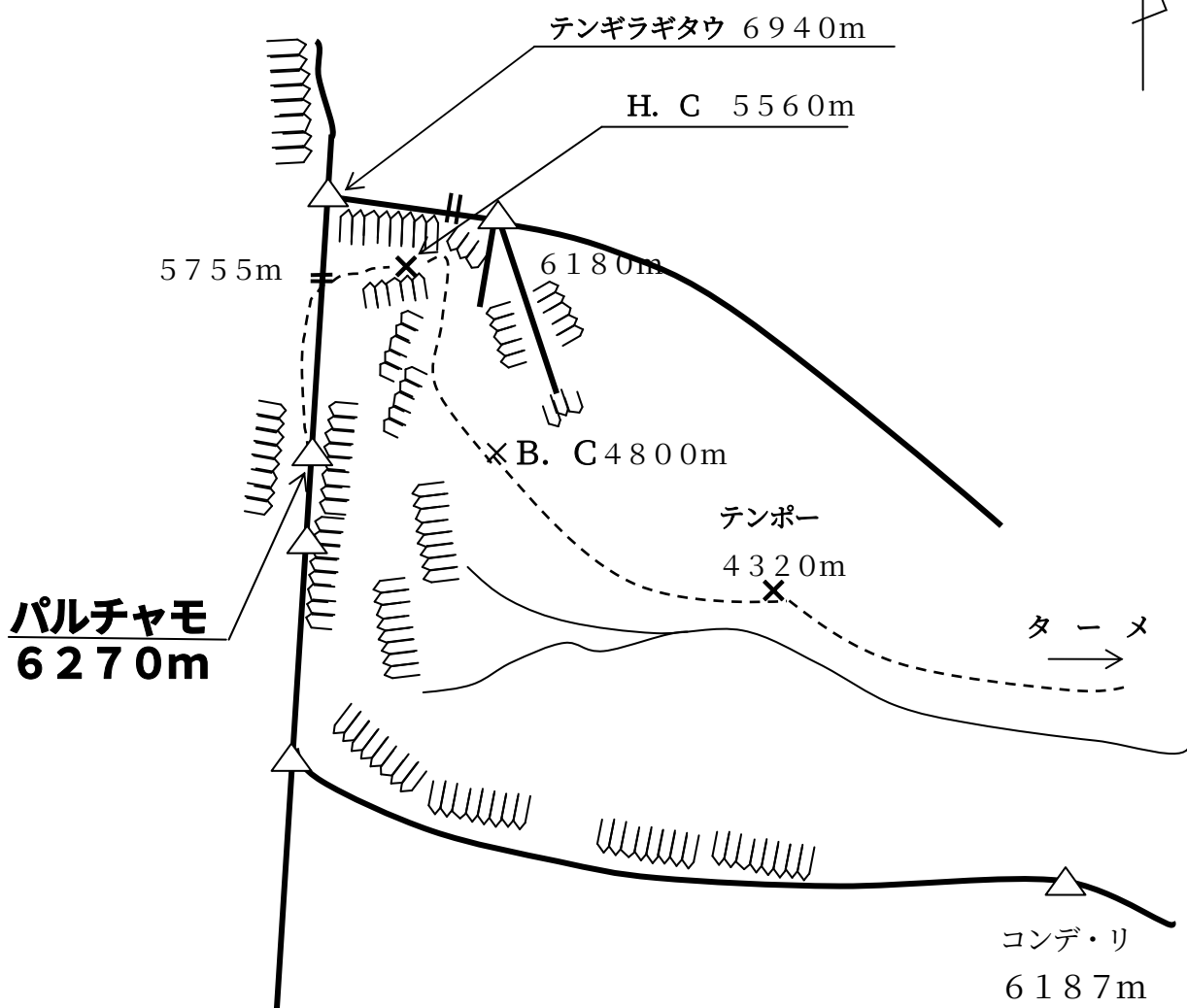
サーダ ゲルブ シェルパ(右)
H.A.P ギャルゼン シェルパ (ヤク担当 左)
コック ビザヤ、ビルバード
キッチンボーイ ナバラズ
ポータ ダンクマ、ロイダム、チャクラ



ネパール全図

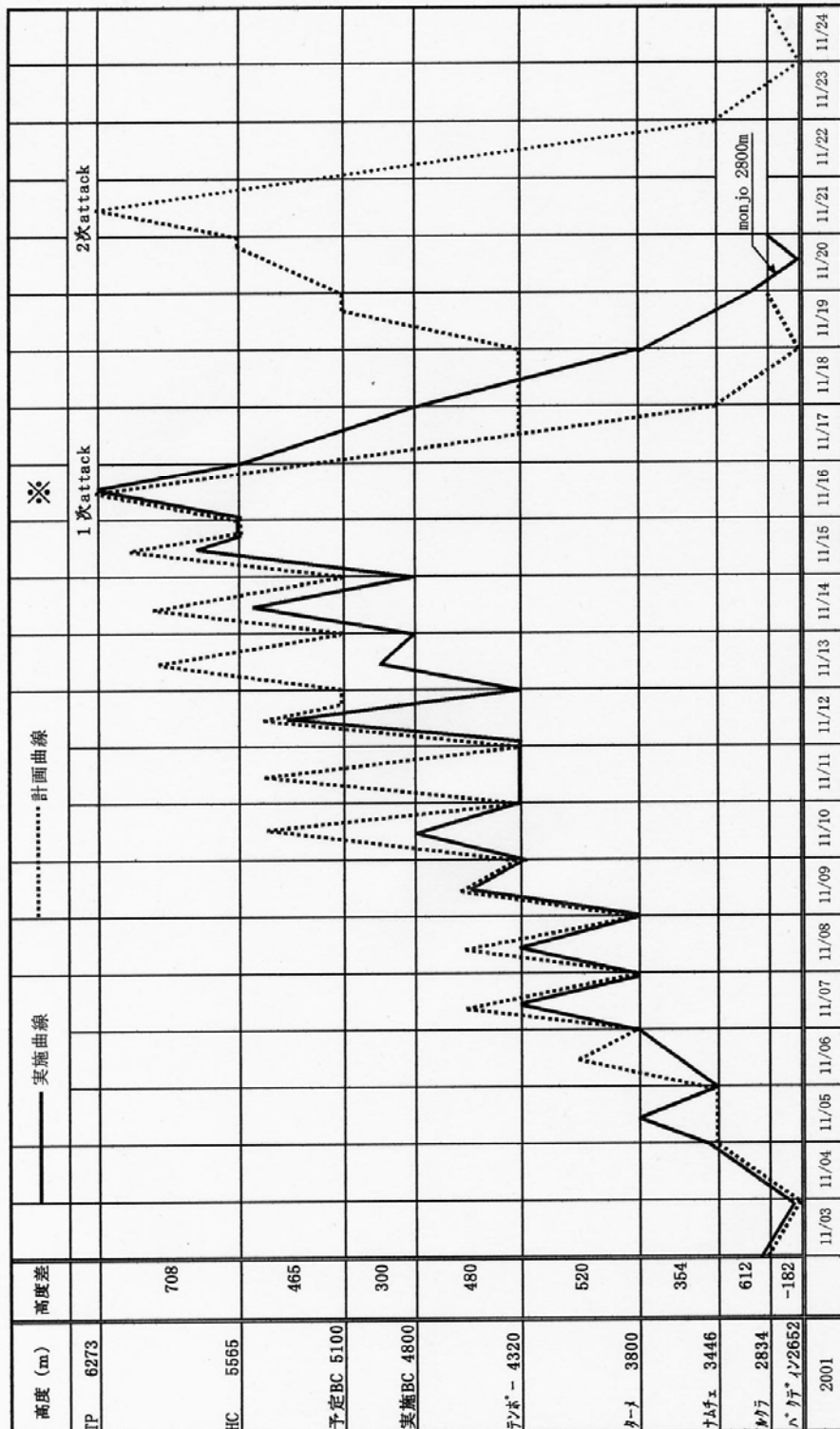


パルチャモ概念図



登高曲線

吉田勇雄



登山日誌

岡本聡子

11月1日 関西空港～カトマンズ

カトマンズの埃っぽい町並みに圧倒される。車はガタガタだし、クラクションがうるさい。バンコク経由の飛行機は、待ち時間が長くて疲れた。ろくに寝てなくて頭がボーッとしているにも関わらず、現地エージェントのコスモトレックで、早速打ち合わせと泉州会デポ装備の整理をする。ホコリだらけと暑さでグッタリ疲れた。

11月2日 カトマンズ滞在



タクシーと交渉する

サーダーのゲルブと4人でタメールという街に買い物に出掛ける。おもしろい物がいっぱい売っていて帰りの買い物が楽しみ。登山用品も新品やら中古やらいっぱい売っている。個人装備は何でも揃えられる。夕飯に前夜祭ということで、高級そうなネパール料理のフルコースを食べる。それでも3人で5000円、安い！

11月3日 カトマンズ～ルクラ～パグディン

プロペラ機でルクラへ。飛行場は、英語がよっぽど堪能でないと、自分らで手続きするのは無理そうな恐い雰囲気だった。ゲ

ルブが全部手配してくれた。ルクラの空港に着いたら、コックやポーターとご対面。ロッジでゆっくりお茶と昼食を済ませてから歩き始める。のんびり、ゆっくりと。最初のメンバーは、高所シェルパ2人、コック1人、ポーター5人、牛使い2人、ゾッキョ8頭と豪勢な所帯だった。(途中で牛は減った。)

カトマンズ 7:10 ルクラ 7:50-11:40 パグディン 15:00

11月4日 パグディン～ナムチェ・バザール

早速2名下痢で苦しむ。朝は、紅茶と洗顔用お湯を個人テントにキッチンボーイが持ってきてくれる。昼ご飯もコックが作ってくれる。至れり尽せり。ナムチェは大きな村だった。今日はきれいなロッジ泊まりとなった。明日は私たちの立てた予定では停滞日だったが、ゲルブがエベレストビューホテルに高所順応に行く計画を立てた。ラッキー、早くもエベレストが見られるということで、皆喜んだ。

パグディン 7:54 ナムチェバザール 15:55



エベレストビューホテルにて

11月5日 高所順応日

3800m まで高所順応に行く。生まれてはじめて肉眼でエベレストを見て一同感激。遠いらしいが近くに見える。それだけ高いということ。パルチャモも見えたし、アマダブラムもかっこよく、有意義な順応日だった。

ナムチェバザール発 7:30 着 14:58

11月6日 ナムチェ・バザール〜ターメ

吉田、岡本は頭痛に耐えながらの登りとなった。それでも余裕のある行程と軽い荷物でゆっくりゆっくり、なだらかに登って行くので楽ちん。ターメのテント場ものんびりとしていてとっても素敵だった。

ナムチェバザール 8:00 ターメ 14:58

11月7日 高所順応日

ゲルブの提案で高台にある寺に祈祷料を払い、登山の無事をお願いした。この日は4300m まで登る。空気が薄いとハッキリ感じる。テント場に戻る前にシェルパのギャルゼンの自宅に招待してもらい、ご馳走になる。標高 3800m 付近の住まい。高所に強いのも当たり前！今日は雪が降った。

ターメ発 8:08 着 15:42



with galthen's family

11月8日 高所順応日

快晴。(昨日の雪を境に、それまでより更に毎日どんどん天気安定していく。)

4400m まで順応に行く。今日は全員が頭痛を覚えた。ちょっと高い所に登っただけで、なんとしんどいことか。夕御飯に大変 Big な春巻きが出た。毎日栄養のある美味しいものがたくさん食べられる。どうも太ってしまいそうだなあ。

ターメ発 8:06 テンポー 12:00 ターメ 着 14:18



ターメにて

11月9日 ターメ〜テンポー

道中、右手にチョーオユーが、後ろにはマカルーが、そして行く手にはパルチャモが見えたり、小川が流れている大平原をのんびり歩いたり、なんとも贅沢な1日だった。



テンポーにて

テント場は、トレkkerはここまで来ないので、静かでもっとも気持ちのいいのんびりとする場所だった。吉田はこの日今までで一番頭痛がひどい。夕食のしょうゆ味

の炊き込みご飯に、なぜかゾッキョのとろけるチーズが入っていて最高にまずかった。

ターメ 8:00 テンポー 11:45 高所順応 13:28-15:16

11月10日 高所順応日

ベースキャンプまで往復する。翁長は絶好調。吉田頭痛。岡本風邪気味で調子悪い。ベースキャンプについて、酸素の薄さを実感。ここで寝れるか約2名心配。

テンポー-発 8:20 B.C.11:58 着 15:00

11月11日 停滞日

ここで、少しゆっくりしようということに。1日お互い好き勝手なことをし、のんびりと過ごす。



om mani peme hun!

11月12日 高所順応日

おとついの高度よりさらに 100m 高く登る。翁長は相変わらず好調で、後の2名はまずまず。

テンポー-7:50 B.C.11:05 テンポー-16:00

11月13日 テンポー〜BC

BC 入り。どんどん天気が良くなってきて、昼間直射日光が暑い。昼食後、HC に上げる装備をチェックする。結構な量だ。話し合いの結果、HC までポーターを2人雇い、HC 装備を上げてもらうことにする。夕方、100m だけ順応に登る。ちょっと登っただけです

ぐに頭が重くなる。

テンポー-8:10 B.C.11:15

11月14日 高所順応日

今日から「登山活動」といった雰囲気だ。予定では、HC まで順応に行くはずだったが、途中のクラック帯の手前で落石がひどく、行くことが出来なくなり、やむなく引き返す。急ぎょ、明日 HC 入りすることに予定が変更された。未経験高度での睡眠。かなり不安。

B.C.7:45 5480m B.C.14:30

11月15日 BC〜HC

シェルパ2人は、翌日のアタック時のフィックスロープを張るため、ポーター2人は早い時間に落石箇所を引き返すため、亀のようにトロい私達3人を置いて、どんどん先に登って行ってしまった。情けないことに落石危険箇所は、私達がそこに着くより、ポーターが降りてくる方が早かった。



落石危険箇所の通過

そして私達が通過した後、ものすごい落石が落ちた。おお、なんと危機一髪。危ないぞ私ら。HC は素晴らしい場所だった。HC よりテシラブツェ峠まで標高差 200m 往復。夜はテントが超狭く、酸素も薄くて超息苦しく、翌日は寝不足でのアタックとなってしまった。

B.C.5:15 H.C.11:00 ティラプツァ H.C.14:30

11月16日 アタック

持って行ったα米のお粥を食べる気がしない。シェルパ2人はきっちりと朝食をとる。なんと、「はったい粉」。砂糖たっぷりの紅茶で鍊って食べる。お裾分けをもらった。アタック成功。

起床 3:30 H.C.5:00 頂上 10:10

H.C.13:00

(アタックの様子は、別途)



H.C.の様子

11月17日 HC～BC

昨日の夜は、翁長1人がツェルト寝て、全員が広々とぐっすり熟睡できた。お陰であの疲れまくっていた体が大分楽になっていた。朝早くからポーター2人が荷物を降ろすのにHCに上がってきてくれた。途中のところでは、キッチンボーイがあったかい飲み物を魔法瓶に入れて持ってきてくれた。皆登山成功を喜んでくれた。夜キッチンテントでささやかな酒盛りとダンスパーティーが行われた。

H.C.8:30 B.C.10:30

11月18日 BC～ターメ

どんどん下山。今日はターメのロッジ泊まり。ダイニングで夕食の後、コックが作

ってくれた「You are success」と字の入ったケーキを皆で食べた。その後、チャンの酒盛りとダンスパーティーへと、またもや発展してしまった。

B.C.7:35 ターメ12:00

11月19日 ターメ～モンジョ

降りるのは本当に早いけど、登るのに比べて1日の歩く距離はとっても長くて結構疲れる。

ターメ8:00 ナムチェバザール12:00 モンジョ16:20

11月20日 モンジョ～ルクラ

とうとう終わってしまった。今日でサードとコック以外の人とはお別れ。ロッジで夜、打ち上げパーティーをして、みんな酔っぱらった。

モンジョ7:45 ルクラ14:30

11月21日 ルクラ～カトマンズ

コスモトレックに戻り、装備整理や事務手続きをする。

ルクラ14:00 カトマンズ 15:00

11月22日 カトマンズ滞在

昼間は買い物三昧。夕食に、ゲルブの奥さんのお姉さんの家に、招いてもらった。家庭的ネパール料理をご馳走になる。ネパールの人の生活にも触れることが出来た素敵な経験だった。

11月23日 カトマンズ滞在

観光&買い物。翁長一人旅に出る。

11月24日 岡本、吉田ネパール出国

11月25日 岡本、吉田帰国

11月30日 翁長帰国



サクセスケーキ

パルチャモ峰アタック

吉田勇雄

このテントで5人はきつかった。狭いし水を十分飲んだせいで夜中に2回もトイレに立つし……。ほとんど眠ることができなかった。午前3時半、誰かのアラームが鳴っている。会長に起こされて、皆渋々起き出して、食事、パッキング、黙々と皆準備を進めている。

「歩き出したら暑うなるで！」岡本さんも同じ考えのようだ。厚手のフリースを脱いでアンダーシャツに薄手フリース、その上にヤッケをつける。「うー寒い！」。夕べ準備したはずのシンサレートのごつい毛手袋が見あたらない。アタックザックをひっくり返して見るが見あたらない。昨日峠まで登った感じからするとそんなに寒くはないだろう。何とかなんと少し薄手の毛手袋に使い古したオーバーミトンをつける。羽毛のオーバー手もおいていくことにした。

ハーネスを装着する前に気づいて用便をするが、このとき不用意に右手からアンダー手袋を外して冷やしてしまう。後になって厚手のフリースを脱いだこととこれが響くことになる。行動食をポケットに入れることを忘れる。薄い目出帽もちょっと不安。丑三つ時をちょっちょすぎたヒマラヤの山の中で焦ったり、不安がったり。

パーティはガイドのギャルツェンと吉田、サーダーのゲルブと岡本、翁長の編成を昨夜会長から命ぜられている。真っ暗な中ギャルツェンを先頭にテシ・ラブツァ（峠）に向か

って登り出す。ほとんど起伏のないきれいな雪の斜面に残された昨日の足跡をヘッドランプで探しながら登る。アイゼンが雪を噛むキュッキュッと言う音と自分の呼吸音だけが聞こえてくる。テンギラ・ギダウのやまかげに入っているため風もない。

ギャルツェンの早いペースに着いて行ったらあかんの、つい引きずられるように着いていってしまう。後ろのパーティと見る見る間があいてしまう。少し呼吸があれているがこれぐらいのペースなら着いていけるだろう。そんなことより手の指先がちょっとしびれてきている。特に右手のしびれかたがひどい。



アタック前日のテシ・ラブツァへの登り

テシ・ラブツァの手前で後のパーティを待つ。高度5800m日の出前の冷え込みですすでに両手の指の感覚がおかしいことをあがってきた会長に告げる。「HCに戻って厚手の手袋を取りに行きたい」と。会長が予備のハンガロンテックスを貸してくれる。このときはハーネスをはずしてヤッケを脱いでまでフリースを着る気にはなれなかった。何とかなるやろ…。

峠にあがると西からの強い風が吹き付けてくる。昨日ここまできて風があることをしていたのに……。すでに遅い。自分の体温がどんどん奪われていく。同じ風でも昼と夜ではまったく体感温度が違う。登りながら早く太陽が出てくれることばかり考えてしまう。しかし寒い。ほんまに寒い！！。日の出を請い、祈ったことはこのときが初めてやった。

東の空が薄明るくなってきた。黒から藍へ、藍から紫へ、紫から青へのすばらしいグラデーションがヒマラヤのスカイラインに描き出されていく。同時に星々が一個又一个と消えていく。文章にするとこの表現は静かな感じになってしまうが強烈な風の中でこんな景色を眺める。

峠を越えてすでにパルチャモの主稜線に入っている。ここから頂上までの高度差約500m、50mぐらい登ると傾斜が急になる。そこから途中の肩までフィックスロープがのびている。昨日のうちにギャルツェンたちが設置してくれたものだ。高度差にして150mぐらいか。あこまでの登ったら休憩や！ユマールに身を託して登り出す。

太陽は出たけれど風は相変わらず容赦なく吹き付けてくる。ペースはギャルツェンに引きずられて速すぎるが早く風のないところに回り込んで休みたい。力を入れてピッケルの石突きとピックを雪面に押し込む、ユマールをスライドする。息を吐き出して吸い込みながら気合いを入れて一歩あがる。2、3歩登るとはあーっ！はあーっ！はあーっ！はあーっ！と大きく呼吸を繰り返さないと次の足が出ない。目の前の雪壁をにらみながらこの作業を延々と繰り返す。

吐く息で目出帽の口のあたりはごわごわ、外側は凍り付いている。呼吸を乱すと、頭に血が通わなくなるらしい。頂上を落として、HCに無事帰るという少し先の目標を見失い、ただただ早くこの状況から抜け出したい。そんな思いばかりが頭にわき上がってきて、ただがむしゃらに上に登る。よけいに、はあーっ！はあーっ！はあーっ！！よけいに呼吸を乱す。もう頭は酸欠状態である。

ほぼ真上を見上げるとギャルツェンが肩から俺を見下ろして、ニコツとしているように見える。あこまで行ったら休憩や！

やっと肩に着いた。が、強い風。こんなここではとても休憩などできない。風を辛抱しながら後続を待つ。ルートは東斜面に回り込んでいる。日当たりのよい、風のないところに行きたい。小さなクレバスを乗り越して安定した雪面で休むことにする。

相変わらず風も強いけれど太陽と会長の手袋のおかげで手の指先は完全に復調した。この時は少し疲れたかなと思ったものの、ザックから出すのが面倒で何も飲まず、なにも食べなかった。いやできなかったのか、もう忘れていている。ここからは山体に遮られて頂上は見えない。ルートは主稜線通しで巨大な雪底の上に行くように見える。太陽に暖められてはいるがこの東面の雪質もアイゼンがよく効くキュッキュッ雪だ。

稜線に出る。西側の景色が目飛び込んでくると同時に、強い風が襲いかかってくる。このあたりの斜度は上に比べると大したことは無いように見えるが、どこにもひっ懸らんかったら、多分一気に下まで行ってしまいそう。クワバラクワバラ……。

ギャルツェンにあわせてはもう登れない。息が本当に苦しい。一歩登るたびに荒い呼吸を繰り返す。登りながら少し右に回り込んで小さな肩を乗越す。

ここから落ちたらB. C. の下に見えるポカリ(氷河池)まで一気に1500m.....。つまらないことを考えている自分に気づく。自分が今いるのは圧倒的な量の光と風の中に体をさらし、あえぎながら登らなければなら

ない一筋の白い道である。しかもそのまわりには見たこともない氷河や山々が、マイルドセブンのCMのように自らをさらけ出している。なんとすばらしい！オンマニペメフン！アーメン！南無阿弥陀仏！だ。

「Stay here!」ギャルツェンの言葉に我に返る。少し風が弱くなっていることにこの時初めて気づく。ここから頂上まで高度差にして15mぐらい？距離にして50mぐらいか



アタックをかけるギャルツェンと吉田(頂上の旗が見える)

？両側ともスパッと切れ落ちたほんまもののナイフリッジ。穂高の馬の背に雪が着いたらこんな感じか。誰かのトレースが着いているがそこ意外はすべて人生と泣き別れのルートになっている。

ギャルツェンがナイフリッジの途中でピッチを切る。「Come here!」といいながら手招きしているように見える。「あそこを通るのはかなり怖そうや。」「ここまできたら頂上踏んだのとかかわらへんやないか」「もうここであえ」次々と弱音といいわけが頭の中にわいて出てくる。

ハァーッ！ハァーッ！ハァーッ！嫌々しながら、すねたように一歩を踏み出す。ギャルツェンの口に白い歯が見えている。早く来いとわらっている。「そんな早よ歩かれへんわ

い」ハァーッ！ハァーッ！よそ見をせんように彼に向かってまっすぐ歩く。

目線を少しあげた、手の届きそうなところ。群青の空の中、誰が残していったのか風にはためく一本の旗が見える。着いたぞ！あこが頂上や！！

頂上でメンバーを次々に迎える。抱きあったり、握手したり、写真を撮ったり....。エベレスト、ローツェ、ヌプツェ、アマダブラム、カンテガ、タムセルク、コン・デ・リ、テン・カンボチェ、トランバウ氷河越しにロールワリン山群、テンギラ・ギダウの肩が天に向かって突き刺さる....今俺はすごいところにおる！？

この後自分が疲労していることに気づく。またしてもシャリバテ.....。

渉外について

翁長和幸

当初気がかりであった事とその結果を思いつくまゝ述べてみる。

ネパール往復はタイ航空を利用した。直行便はロイヤルネパール航空があるがタイ航空は、費用の面で2~3万円安価である。

深夜便を利用するとその日の昼過ぎにカトマンズに入ることが出来る為半日の準備時間が確保できる。これらの2点から考えてタイ航空に決定した。尚、結果として解った事だがロイヤルネパール航空は持込荷物の重量に厳しく、キッチリとオーバ分が請求されるようである。2週間前にロイヤルネパール航空でカトマンズに出掛けた角谷君からのFAXでは1Kg オーバにつき1600円の請求があったとの事。タイ航空での帰国時に計量した私の荷物は34Kg あり14Kg オーバであったが係員が一瞬難しい顔をしたがウインクして通してくれた。どうもタイ航空は持ち込み重量については寛容であるらしい。

当初、チケットを H.I.S. に依頼したが、H.I.S. のツアーに入るのではなくチケットのみの手配なので積極的ではなかった。海外の山岳保険の加入も不可であったので H.I.S. をキャンセルし、アルパイン・ツアーに依頼し直した。しかしここでもチケットのみの手配では山岳保険の取り扱いが難しいとの事であった。が発発直前に保険証書が届いた。そうこうしている間に米国の同時テロが発生しその影響（旅行者が東南アジアに流れてきたとの事）でバンコク~カトマンズ間がなかなか

か取れずどうなるか心配したが、出発予定日の1日遅れの便を押える事が出来た。海外登山の数少ない私だが、今回は航空券の確保と山岳保険の加入がうまくいかず、かなり心配させられた。アルパイン・ツアーの乾さん（元会員）が大変ガンバッテくれたのだと思う。感謝・感謝である。

一方、帰国便も登山が早く終わったので変更の必要があった。しかし私たちのものは変更不可のチケットなので気がかりであったが、これはコスモ・トレックがうまくやってくれた。本当に今回は航空券で悩まされた。

キャラバンについて

キャラバンの方法は幾通りかあるようだ。

ロッジ泊り方式（一番簡単で安価なやり方）

ロッジに泊りながら昼食は茶店（途中でいくらかでもある）でとるという方法

手数料方式（一番大変なやり方）

共同装備や食料の調達を自らのメンバーでやり、サーダとポータのみエージェン트에依頼し斡旋手数料のみ支払う方法

パッケージ方式（一番気楽なやり方）

B. C までは一般のトレッキングと同様、ガイド・コック・ポータ・食料等々すべてエージェン트에任せの方法

いずれのやり方をとっても B. C 以上は日本から持参した乾燥食料でまかなう事になる。ロッジ泊り方式では毎回の食事は当然現地食になる為、下痢などに充分注意しなければ

ならない。また食事が口に合わなかったりしてB、C入りするまでに体調を崩す事もある。ネパールに慣れたメンバーであればよいが、そうでなければこれらの事は慎重に考慮すべきであろう。私はネパール料理が口に合わず初めは少々下痢気味であった。コックに何度か注文をつけ日本風の味付けにしてもらってからはおさまった。

すべて隊でまかなう手数料方式もネパールに慣れていないと現地での食料や燃料の買い付けが大変な作業となる。ヒマラヤ登山が初めての3人ではムリと判断した。

これらのわずらわしい事をエージェントにまかせ、私達は本来の目的である登山に集中出来るようパッケージ方式を採用しコスモ・トレックに依頼した。この結果日常のわずら

わしい事に振り回されることなくノンビリとB、C入りが出来た。少々、大名登山の感じがしないでもなかったが、費用としては大きな負担を感じるものではなかった。

登山が早く終わり、契約している日数が余ったので全員（我々3人、ガイド、コック、ポータ）で少し遠回りのトレッキングをしてカトマンズに戻ろうと考えコスモ・トレックに伝えたとパッケージ方式では登山終了後は速やかに戻らなければいけない事と余った日数についての費用の払い戻しはしない事を告げられる。パッケージ方式を利用する人は知っておいて下さい。



シャンボチェの丘から眺めるバルチャモ（最奥の雪峰）

吉田勇雄

HC共同装備	人数編成	5	名	所用日数	2日
名称	規格、型番、内容等	数量	単位	調達方法	担当
テント	5～6人用 (外張り,張り綱,ペグ付)	1	張	デポ(ヨレ込)	
ツェルト	2～3人用	2	張	レンタル	
スコップ		1	丁	デポ or レンタル	
ガスヘッド		2	台	個人装備供出	岡本、吉田
ガスカートリッジ	厳寒地用 0.33缶*5人*2日=3.3缶	7	缶	現地購入	
ブス板		2	枚	個人装備供出	
ローソク		1	本	現地購入	
テルモス		2	本	個人装備供出	
ロールペーパー	30m巻き			現地購入	
	(0.5m*4枚/回*1.5回/日*2日*5人				
	=30m 30/30m=1	1	巻き		
医薬品	別紙	1	式	日本で購入	岡本
修理具	針金	5	m	日本で準備	吉田
	ガムテープ	1	巻き	日本で準備	吉田
	プライヤ	1	丁	日本で準備	吉田
	ドライバー (＋－共用)	1	丁	日本で準備	吉田
	糸、針セット	1	式	日本で準備	吉田
ポリプロひも		10	m	現地購入	
標布		若干		現地購入 笹竹現地調達	
パイル		1	丁	供出	翁長
メインザイル	9mm 45～50mm	2	本	ルーム共装使用 新品	持ち込み
フィックスザイル		300	m	デポ	
スノーバー		4	本	デポ	
アイスハーケン		4	本	デポ	
雪袋		2	枚	現地購入	
ビニル袋	大小	若干		現地購入	
ホカロン	HCでの5人*2日	10	袋	日本で準備	翁長
ラジオ	予備電池	1	台	日本で準備	岡本
電卓	計算機	1	台	日本で準備	吉田
辞書	英和	1	冊	日本で準備	吉田

個人装備

名称	規格・型番	数		名称	規格・型番	数	
シュラフ	羽毛量 750g	1		カラビナ	普通	5	枚
インナーシュラフ又はシート		1			安全環付き	1	枚
シュラフカバー	ゴアテックス	1		シュリンゲ	長	1	本
マット		1	枚		短	4	本
シート	ビニールシート	1	枚	ユマール		1	
防寒着	セーター又はフリース	1	着	ガスヘッド		1	
羽毛服	上着	1	着	食器		1	
オーバーヤッケ上下		1	着	箸		4	膳
高所帽		1	式	スプレー	プラスチック	1	本
目出帽		1		水筒	1リットル	1	
薄手手袋		1	対	テルモス	500cc	1	
毛手袋	5本指	2	対	サングラス		1	
オーバー手袋	ミトン	1	対	日焼け止め		1	
ザック	大 70リットル程度	1		リップクリーム	山用	1	
	中 30リットル程度	1		地図		2	枚
スタッフバッグ	50リットル程度	1		コンパス		1	
下着		2	set	ライター		1	
ズボン下		2	set	非常セット	ロウソク、ライター、マッチ、メタ、メ タ台		
登山シャツ		1			事故カード、非常食(1日分)	1	式
登山ズボン		1		筆記具		1	set
ハンカチ	バンダナ	2	枚	雨具、傘		1	
ナイフ		1	本	洗面具	石鹸、シャampoo、歯磨き粉、ひげ 剃り、歯ブラシ、爪切り	1	set
靴下	アタック用、替 え	2		持病薬		1	set
テントシューズ		1	足	海外登山保険証		1	
登山靴	高所用	1	足	ヘッドランプ(リチウム)	予備電池、球各2セット	1	
軽登山靴		1	足	タオル		2	
運動靴		1	足	時計		1	
ロングスパッツ	ゴアテックス、予備 止め具	1	足	山行計画書		1	
ストック		2	本	書籍			
ピッケル	バンド付き	1	丁	カメラ		1	台
アイゼン	12本爪	1	set	フィルム			
ハーネス		1		ホカロン		5	袋

共同装備について

コスモとレックデポのテント(ヨーレイカ)二張りを使用。テントは同じデザインのため、今回外張りにマジックで「泉州山岳会、No.1」・「同 No.2」とナンバーをつけて使用。大きさは4人がちょうど良く、5人では非常にきつい。No.2は外張りの生地が傷んでいる。現地ではテントはほとんど売っていなかった。

ツェルトは現地ではビバークテントと言わないと通じない。ほとんど使用されることがないらしく、コスモとレックにもないため、個人の物をレンタルする。日本から持っていた方がよい。

共同装備、特定用の装備（アタック装備、HC用装備）等は大型厚手の生地のバッグ（アルパインツアーの提供品）に収納しヤクで運搬した。

標布、スコップは不要であった。トイレッ

トペーパーは巻きがゆるゆるですぐになくなる
十分用意させる必要がある。

個人装備について

吉田が今回使用したシュラフは天山のゴアスーパーウインター(羽毛量 750 g)は 5,500m のHCでも十分暖かかった。羽毛服はなくても過ごせる。羽毛ミトンはアタック時の使用を考えていたが使わなかった。またストックは不要で、現地での調達を考えていたが買わなかった。

山用のホワイトリップが手に入らず、唇の日焼け対策をかんがえていなかったため、二日で唇の皮がぼろぼろになる。それ以降、帽子とタオルで顔を覆う。

傘は使用しなかったが、トレッキング中2回ほど雪が降ったので、カッパで対応する。

山行計画書はガイド用とトレッキングサーブス用が必要であった。

コスモトレックデポ装備

(2001, 11, 1 現在)

名称	内容	規格	数量	単位	備考
テント	ヨーレイカ No.1	4 人用	1	張り	HC に使用
	ヨーレイカ No.2	4 人用	1	張り	BC に使用
	カモシカ吊りテン	4 人用	1	張り	かなり古い
フライ	ホソノ		1	張り	かなり古い
ペグ			10	本	
FIX ザイル	ダンライン		700	M	
ポリタンク			2	個	
酸素マスク	レギュレータ付き		2	Set	
スノーバー			24	本	
医薬品	滅菌ガーゼ	大	6	袋	
	消毒用綿球		1	袋	
	ネット包帯		4	個	
	テーピング		1	個	
	絆創膏		2	個	
	包帯		2	個	
	体温計		1	個	
スコップ			1	本	
カラビナ	普通		24	個	
シュリング			多数		
コッフエル	約 3 人用	大、中、急須	1	Set	
	約 4 人用	大、中、小鍋	2	Set	

	約6人用	大、中、小鍋	1	Set	
圧力鍋	2 ^{リットル}		2	個	
大型ランプ	灯油		2	台	
ロックハーケン				枚	

食料（HC 用及び予備）について

岡本聡子

日本から持ち込み

α米	白飯	4ケ		スープ類	あさげ	3	
	赤飯	1ケ	未使用		松茸の吸い物	4	
ジフィーズ	親子丼	10ケ		もち	(200g 入り)	2袋	未使用
	杓苳草煮びたし	1		そうめん	そうめん	6束	未使用
	なすの漬け物	1			スープの素	10袋	未使用
	野沢菜漬け	1			スライス椎茸	2袋	未使用
ラーメン	チャルメラ	2			乾燥ねぎ	12袋	未使用
	めっちゃ好きやねん	3	未使用	日本茶	玄米茶	20p	
	サッポロ一番塩	5	未使用		煎茶	20p	
高野豆腐		4袋			グリーンティー	3袋	未使用
スープ類	卵スープ	10			ポカリ	6袋	
	わかめスープ	6		梅干し		10ケ	
	生みそずい	3		かつお節		8袋	未使用

*全く使用しなかった物にだけ未使用と記載。塩、コーヒー、紅茶、砂糖はコックから調達。

キャラバン中、日本食が食べたくなるかと、そうめんとラーメンを持っていったが食べなかった。コックの作ってくれる料理でお腹いっぱいだし、なにより結構いける日本食ができた。ラーメンは朝食によくでて美味しかった。現地で売っているインスタントラーメンも美味しいので日本からわざわざ持っていく必要もない。

日本茶はないので煎茶やほうじ茶のティーバッグが重宝した。そばのインスタントを持

っていったら、美味しく食べられたかもしれない。お昼ご飯もコックが作ってくれるので、行動食は少しでいい。現地では美味しい菓子は売ってないので、日本から持っていった方がいい。翁長さんにいただいた「かりんと」がとても美味しかった。さらに、酒のつまみになる塩味のものも売ってないので、スルメ、柿ピー、サラミなどを持っていくべきだった。(美味しい「かまぼこ」が食べたいなあと言っていた。)

医療について

岡本聡子

日本の薬局で購入

消毒薬	イソジン	30ml×1		未使用
うがい薬	イソジン	50ml×1		未使用
のどスプレー	福地製薬	30ml×1		
のど服用薬	第一製薬	18錠		
のど飴	トキワ南天	24錠×3		
ビタミンE剤(エハラックス)	エーザイ	100カプセル	凍傷	未使用
ベルクリーン軟膏	カネボウ	14g×1	凍傷	未使用
培養おたね人参	ジンセック	3袋	体を温める	未使用
バンドエイド		大24中20小20		
滅菌パット		L6、M8		未使用
サロンパスハイ	久光	16枚	湿布	未使用
テーピング		1巻		未使用

中野氏より提供

鎮痛剤	ミナルフェン	44錠		
// (座薬)	ボルマゲン	28錠		未使用
下痢止め	ロベミン	44錠		
胃薬	ムコスタ	44錠		
//	ストガー	28錠		
抗生物質	メイアクト	44錠		未使用

現地の薬局で購入

ダイアモックス		40錠	高山病	
---------	--	-----	-----	--

＊全く使用しなかった物にだけ未使用と記載。

乾燥と風邪気味になったりすると、のどがすぐ痛くなるので、弱い人はのどに直接吹き掛ける消毒スプレーを持っていくと便利。水で薄めるのはお湯を調達しないといけないので面倒くさい。よく使った薬は、鎮痛剤（頭痛）、下痢止め、胃薬。風邪引き用には抗生物質しか持って行ってなかったのだが、風邪気味ぐらいの時用にもう少し弱い薬、いつも日本で服用している物とかを持っていったらよかったと思った。

＜パルスオキシメーターについて＞

行く前に持っていくべきかどうか、色々意見が出たが結果的に私らの場合は持って行って良かったように思う。それは頭痛がひどい場合、体全体がしんどく感じる。、そんなとき、自分の感覚だけでは降りないと行けないので

は？とってしまうのだが、血中酸素量ををはかってみるとそんなに悪くないことが解り、降りなくても大丈夫と判断できた。なかなか自分の感覚だけでは判断が難しい。我慢すぎて悪い場合もあるだろうし、それがあの小さい装置一つで判断材料に大いに役立つので持って行って良かったと思った

＜ダイアモックスについて＞

吉田と岡本がしんどくなってから、服用した。ききめはあまりよく解らなかった。本当は症状のでる高度に達する以前から服用し続けるという使い方をしなければならないのだが、今回二人は初めての高度を経験するのに、自分の体がどういう症状になるのか試してみたかったし、なるべく薬に頼りたくなかった。のでそういう使い方はしなかった。

雑 感

岡本聡子

シェルパ族の人は宗教が同じ仏教徒だからだろうか、習慣が似通ったところが結構あって親しみが沸く。

赤ちゃん用のお尻ふきを持って行くと、とっても快適。普通のウェットティッシュでは、薄くて頼りない。

ポーターに運んでもらうのには、現地で売っているホールバックという袋状の鞆がいい。ザックより安くて丈夫だ。それに、すごい汚れるのでザックだともったいないし、日本に帰ってから洗うのが大変だった。

日ざしがきつく乾燥しているので、すぐに顔がボロボロ、ヒリヒリになった。普段日本で使っている化粧品ではおっつかない。さらに高い所では、化粧水は大丈夫だったけど、美容液は寒さで固まってしまって使い物にならず、肌が最悪の状態だった。保湿効果の高いクリーム状の化粧品を持って行くべきだ。唇もカサカサで、ベっとりとしたリップクリームが欲しかった。

4 時には日が陰るので、個人テントでは、シュラフに潜り込まないと寒い。それにロウソクでは本を読むにも日記を書くにも暗かったので、ランタンがあったらなーと思った。(もっぱら毎晩食べ終わったら、すぐにぐっすり寝てしまう翁長さんのような人には必要ない

けど・・・)

シェルパの家に招待してもらった時に、何か日本のお土産があったらよかったのにと考えた。気の効いた小さい軽い物をいくつか持って行っとくと何かとよい。

テント場で朝夕は寒いので、鼻緒型のビーチサンダルより、ヘップ型のサンダルの方が、靴下を履いたまま履けるので便利だ。それと、ヤクのフンがそこたしじゅうに落ちているので、底の厚みがまあまあある方がいい。

下着とか服はそれほど臭くならなかったけど靴下はやっぱり結構……。食べ物のせいもあるような気がする。何回か洗濯はしたけど、水が超冷たいので、泡も立ちにくいし今いち、なるべくいっぱい持って行った方が快適。

帽子は防寒用に毛糸の帽子を持って行くべき、CAP 型のフリースの帽子だと、おでこが寒い。頭が寒いと、頭痛の原因になるらしい。

今回はピッケルで懸垂して充分だったが、もっと疲労してしまっていたら危ないように思うのでパーティーで 1 つは、8 環は持って行くべきだと思った。

カトマンズの街も結構観光スポットがある。もっとゆっくりすべきだった。

ヒマラヤ雑感

吉田勇雄

「高い山を見てみたい。外国の山を歩いてみたい。」高校のころ近郊の山を歩き始めた。雑誌の写真を眺め、著名な登山家の本に感化され、まだ見ぬ世界へのあこがれを抱いていた頃を思い出す。

「マイルドセブンのCMのような雪のある山」あこがれは少し具体的になった。一人でそんなところに行くことができず、冬山のセミナーや長野県で開催される冬の研修登山に参加、胸まである雪のラッセルを経験して、「雪のある山はきれいやけど、しんどいなあ。雪崩に遭うかしらんし、こわいなあ」と思っていた頃を思い出す。

勤め先の先輩から聞かされていた、ネパール、ヒマラヤトレッキング。この目で話の中身を確かめたくて行ってみた。ガンドルンから眺めるアンナプルナサウスの巨大さに、あんな高いところを、本の中の登山家たちは歩いたのかと、素直に驚く。「えー景色や！俺でもあんな高いところに行けるやろか？」と思ったことを思い出す。

「また、来てしまった。^^。」カトマンズはあのことと何にも変わってない。現代と中世と排気ガスが入り交じり、額に赤い印を付けたヒンディー、丸顔鼻ぺちのモンゴロイド、アングロサクソンとしか思えない漬垂れ小僧、裸足の物売り、ひっきりなしに鳴らされる車の警笛音、客引きの声、ターメリックな臭い。今の日本では感じるができない”混沌”。忘れていた感覚がいつ頃に蘇る。このアジアな感じが何ともいえず心地よい。

「山に入る。」といってもネパールでは十分な居住圏。高度の影響で頭痛に悩まされながらの上ったり、降りたりを繰り返す。本当に登山活動といえるのはHCから上部だけ。パルチャモクラスの山ならばしっかりとしたガイドにさえ恵まれれば、自分たちだけで行くことができるかもしれない。

ルクラでの打ち上げパーティ

「酔う。」HCからBCに下山。緊張感がぶちきれる。それまで押さえていたものをいっぺんに解放する。ザイルパートナーは飲み友達になってしまう。

「弱い心。」いったん帰ると決まると、もういても立ってもいられない。何でもいいからとにかく帰りたい。アジアな感じもへったくれも無い。何でこんなに帰りたいのか？

弱い心にアルコール、付ける薬はもう無い。

On mani peme hunn! On mani peme hunn!

また懲りずに「アジアな感じ」を、また味わってみたい……。

大和の国は高取在住

会計報告

吉田勇雄

	項目	内訳	通貨	円
収入				
	海外援助金		127,350	127,350
	餞別		90,000	90,000
	自己負担金		1,015,455	1,015,455
	収入計			1,232,805
支出				
国内	ビザ申請費	4000円*3人	12,000	12,000
	高所食料等		10,976	10,976
	医薬品		12,848	12,848
	パルスオキシメータ賃貸料等	血中酸素飽和度測定器	19,650	19,650
	航空券	3人	318,000	318,000
	保険料	3人	43,500	43,500
	雑費		2,510	2,510
	国内支出計			419,484
現地支出	トレッキング費用	\$1835*3人	5,505	688,125
	パッケージ(22泊23日、カトマンズでのホテル代含む)			
	トレッキング費用追加(精算)		120	15,000
	チップ		8,115	8,115
	食糧費		15,660	26,543
	医療費		140	237
	カトマンズ滞在費	食事等その他	39,954	39,954
	雑 費		35,347	35,347
	現地支出計			813,321
	国内支出、現地支出計			1,232,805
参考一人あたり経費				410,935
				410,935

《御協力者名簿》 敬称略 順不同
右記の方々にご協力をいただきました。
この場を借りて、御礼申し上げます。

村本俊弘、 大西恒雄、 角谷道弘、
坪佐圭子、 笠松マサエ、 梶原一郎、
北山峰生、 榊田誠寛、 中野 匡

編集後記

まず、はじめにこの報告書の発刊が様々な事情により遅くなりましたことを心よりお詫びいたします。編集にあたり原稿の読み返しや、写真の選定等の作業を進めながら登山活動中のことを思い出しております。

みなさまにお世話かけたこの登山の隊員2名は富士山以上の高度の経験がなく、ナムチェバザール以降の行程では毎朝パルスオキシメータの数値（酸素飽和度）に一喜一憂しながら、吸い込まれそうな青空の下、高度順化のため登下降をくり返していました。

ただ、正味の登山活動としてはB.C.より上の行動のみでそれもH.C.までポーターによる荷揚げを行い、アタックの中でもっとも危険な雪壁にはシェルパによるフィックスの固定という、いたれりつくせりの環境の中での登山でした。

いまでは8,000m以上の高峰登山でもこのようなシェルパ等によるサポート体制の下での登山がかなりの部分を占めていると聞きます。我々のような高峰を目指す初心者がこのようなサポート体制の下で登山活動を行うことができることは、本当に安心できると思います。不安だった気分が今では、十分なトレーニングと適切な高度順応を行い、よりよいガイドに恵まれれば、より高みを目指すこと

は十分可能だと考えるようになりました。

先輩諸氏のすばらしい登山活動からすればこの登山は足下にも及びませんが、この報告書がこれからヒマラヤの登山をやってみようという方々の役に少しでも立てばと思います。この報告書が発行できるように編集上のアドバイスをくださった梶原氏にこの場をお借りしてお礼申し上げます。なお、なれない編集で読み苦しい点が多々あるかと思いますがお許しください。

吉田勇雄



カトマンズの路地裏にて

泉州山岳会会報「葛城」
特別号
編集人 吉田勇雄
発行所 泉州山岳会
〒590-0027
堺市榎本町 2-1-9 小野木ビル内
TEL, FAX 0722-21-4454
(振り替え口座 : 00970-5-101558 番)